

施策番号 2-1-3	施策名 農地・土地改良施設等の整備・充実	基本目標	豊かな自然を生かした活力ある農業のまちづくり		
		政策名	基幹産業の農業に対する支援の強化		
主管課 農林課	施策関係課	課長名	手島 旭	内線	410

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果	
国・北海道への事業予算確保を要望し、計画的な土地基盤整備をすすめ安定的な農業生産を支援します。		農地 農業経営体	<ul style="list-style-type: none"> ・土地基盤の計画的整備が図られる ・土地改良施設・農業用水施設の整備と適正な維持管理が図られる 				基幹産業である農業の生産基盤となる、農地や土地改良施設を整備・管理することで農業経営の安定化と農業産出額の維持・向上を図る	
成果指標	説明	単位	年度(策定時)	27年度	28年度	29年度	30年度(目標)	
① 土地改良事業整備済み面積	土地改良事業一覧表による面積	ha	18,371	18,803	19,145	19,511	20,053	
② 利用できる明渠施設の延長	農林課調べ	km	233.0	233.0	233.0	233.0	233.0	
③ 利用できる農業用水施設の延長	農林課調べ	km	421.0	424.8	426.4	429.0	429.0	
成果指標設定の考え方	前期計画から施策を分割。前期計画では「土地改良事業整備済み面積」のみ。①従前と同様の指標。前期目標19,206haには達していないが、H29時点の整備計画に基づき、19,835haと設定。毎年300ha程度の整備面積増加を想定。②新たに利用できる明渠施設の延長を追加した。新規路線を造成する計画はないため、適正な維持管理により現状の延長を継続して利用できることを指標とした。③計画上少しづつ管路が伸びていく計画(末端整備)であり、事業計画に基づき設定した。合わせて適正な維持管理により利用できる延長を減らさない考え方							

2. 施策の事業費

	27年度決算	28年度決算
施策事業費(千円)	434,363	966,066
人工数(業務量)	4,0770	5,0589

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①平成28年度の成果評価(前年度比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	これまで経験したことのない台風災害により、農地・農業用施設に大きな被害がでたが、災害査定等もふくめて、全力で復旧・復興に取り組んだ。被災地区以外の計画地区については、順調に実施できたと考えている。
②平成30年度の目標値達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	災害復旧事業(平成30年度まで)を順調に進め、農地・農業用施設(用・排水路)の復旧に全力を挙げるとともに、その後についても従前の農地等に戻れるような事業推進、町内全体として引き続き計画的な土地改良事業を実施することで目標は達成できる。
(2) 施策の成果評価に対する平成28年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	道営土地改良事業 農業用水施設維持管理事業 土地改良施設維持管理事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	<ul style="list-style-type: none"> ・災害への対応に全力を挙げ、災害復旧事業の予算の確保、事業実施ができた。 ・道営土地改良事業は、補正予算の活用を含め、実質的な事業量は平準化し計画的に実施出来ている。 ・農業用水施設維持管理事業では、用・排水路の復旧に向けての見通しを立てた。 		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

	A	B	C	D	E
進捗結果			○		

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	過去に整備した地区において、管路や設備等の老朽化に伴う、修繕・更新の要望が増えている。数年前の国予算の大幅削減から予算規模は復活してきている。基幹産業を農業とする本町においては、農業生産基盤整備の重要性は認識されており、継続的な基盤整備活動が求められる。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	

5. 施策の課題認識(現状の課題、新たに取り組むべき課題)

<ul style="list-style-type: none"> ●課題① 農業基盤整備の推進 土地改良事業は、長期的な推進が必要であり、本町としては積極的に取り組んできたが今後においても、国の予算状況や地区の優先度などを勘案しながら推進していく。ただし、実施地区数が増大している傾向もあるため適正な地区数を見極めて推進していきたい。 ●課題② 災害復旧の対応 災害復旧事業実施後(平成31年度以降)、復興、土づくり、排水路の拡幅や新規排水路線整備など、長期的な視点で検討すべき課題が多い、活用できる事業の選択や要望活動を積極的に行い、実現に向けていく。 ●課題③ 国営芽室川西地区の推進 事業施工に向けて、準備を進めていき、美生ダムの機器更新、小水力発電設備の設置も含めて推進していく。

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

評価	順調に成果指標も上昇しており、施策として前進したと考える。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	災害の復旧・復興対策については、各課連携のもと、取り組みを進めてもらいたい。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	指標も上昇しており、災害対応についても的確に対応しており、評価できる。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	●災害復旧について、農地をもとの状態に復元するまでには時間が多く必要だと思うが、農協等とも協力しながら尽力してほしい。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した					